

大学院教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

総合科学教育部

博士前期課程

総合科学教育部博士前期課程では、人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え、地域科学又は臨床心理学の課題探究と地域社会の問題解決、持続可能な地域社会の構築に貢献する人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 教育課程の編成

以下のような授業科目を開設するとともに、修士論文作成又は特定の課題についての研究に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成する。

- (1) 地域・情報・環境・行動諸科学の学習を通じて地域科学又は臨床心理学に関わる総合的視点、幅広い領域の専門知識を修得させる授業科目（教育部共通科目）。
- (2) 地域科学又は臨床心理学に関連した基礎・専門知識と倫理観を身につけさせる授業科目（分野コア科目又は臨床心理学専攻必修科目）。
- (3) 地域科学又は臨床心理学に関連した高度の専門知識を修得させる授業科目（分野専門科目又は臨床心理学専攻選択科目）。
- (4) 総合的視点及び地域科学又は臨床心理学に関連した基礎・専門知識を基に、各領域に応じた研究手法を用いて地域社会の諸問題の理解・解決能力を身につけさせる授業科目（地域科学特別演習Ⅰ又は臨床心理学特別演習）。

2. 教育方法

体系的な教育課程及び研究指導を通じて、地域科学又は臨床心理学の関連領域における高い研究遂行能力と研究遂行に求められる高い倫理観を育む機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験を適切に行う。

地域科学専攻 修士（学術）

博士前期課程地域科学専攻では、人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え、地域科学の課題探究と地域社会の問題解決、持続可能な地域社会の構築に貢献する人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 教育課程の編成

以下のような授業科目を開設するとともに、修士論文作成又は特定の課題についての研究に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成する。

- (1) 地域・情報・環境・行動諸科学の学習を通じて地域科学に関わる総合的視点、幅広い領域の専門知識を修得させる授業科目（教育部共通科目）。
- (2) 地域科学に関連した基礎・専門知識と倫理観を身につけさせる授業科目（分野コア科目）。
- (3) 地域科学に関連した高度の専門知識を修得させる授業科目（分野専門科目）。
- (4) 総合的視点及び地域科学に関連した基礎・専門知識を基に、各領域に応じた研究手法を用いて地域社会の諸問題の理解・解決能力を身につけさせる授業科目（地域科学特別演習Ⅰ）。

2. 教育方法

体系的な教育課程及び研究指導を通じて、地域科学の関連領域における高い研究遂行能力と研究遂行に求められる高い倫理観を育む機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験を適切に行う。

臨床心理学専攻 修士（臨床心理学）

博士前期課程臨床心理学専攻では、人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点に基づく幅広い知識と論理的思考を備え、臨床心理学の課題探究と地域社会の問題解決にあたる人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 教育課程の編成

以下のような授業科目を開設するとともに、修士論文作成又は特定の課題についての研究に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成する。

- (1) 地域・情報・環境・行動諸科学の学習を通じて臨床心理学に関わる総合的視点、幅広い領域の専門知識を修得させる授業科目（教育部共通科目）。
- (2) 臨床心理学に関連した基礎・専門知識、技能、実践能力、倫理観を身につけさせる授業科目（必修科目）。
- (3) 臨床心理学に関連した高度の専門知識を修得させる授業科目（選択科目）。
- (4) 総合的視点及び臨床心理学に関連した基礎・専門知識を基に、地域社会の諸問題の理解・解決能力を身につけさせる授業科目（臨床心理学特別演習）。

2. 教育方法

体系的な教育課程及び研究指導を通じて、臨床心理学の関連領域における高い研究遂行能力と研究遂行に求められる高い倫理観を育む機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験を適切に行う。

博士後期課程

総合科学教育部博士後期課程では、人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点と地域科学に関連した高度な専門知識を身につけ、地域科学の課題探究と国内外の地域社会の問題解決、持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献できる人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 教育課程の編成

以下のような授業科目を開設するとともに、博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成する。

- (1) 地域づくりに係る戦略的研究を推進するために必要な総合的視野、高度かつ幅広い専門知識、高度な倫理観を修得させるための授業科目（教育部共通科目）。

- (2) 総合的視点及び地域科学に関連した専門知識を基に、それぞれの領域に応じた研究手法を用いて、地域社会における諸問題を理解・解決する能力ならびに新分野を開拓する能力を身につけさせる授業科目（地域科学特別演習Ⅱ）。

2. 教育方法

体系的な教育課程と研究指導を通じて、地域科学の関連領域において自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。

地域科学専攻 博士（学術）

博士後期課程地域科学専攻では、人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点と地域科学に関連した高度な専門知識を身につけ、地域科学の課題探究と国内外の地域社会の問題解決、持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献できる人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 教育課程の編成

以下のような授業科目を開設するとともに、博士論文作成に係る研究指導體制を整備した体系的な教育課程を編成する。

- (1) 地域づくりに係る戦略的研究を推進するために必要な総合的視野、高度かつ幅広い専門知識、高度な倫理観を修得させるための授業科目（教育部共通科目）。
- (2) 総合的視点及び地域科学に関連した専門知識を基に、それぞれの領域に応じた研究手法を用いて、地域社会における諸問題を理解・解決する能力ならびに新分野を開拓する能力を身につけさせる授業科目（地域科学特別演習Ⅱ）。

2. 教育方法

体系的な教育課程と研究指導を通じて、地域科学の関連領域において自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。

医科学教育部

修士課程

医科学教育部修士課程では、高度化する医療技術の進歩に対応できる専門的人材を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 原則として医科学教育部博士課程に進学するものと想定し、修士2年・博士4年の一貫した教育構想を基本としたカリキュラム。
2. 医学科以外の出身者を入学対象者としていることから、多様な専門的背景を持つ学生の個性に配慮したカリキュラム。
3. 基礎医学から先端医学研究分野へ至るまで、知識・技能を体系的、総合的に理解、修得できるカリキュラム。
4. 医学に関わる高度専門職業人及び研究者を育成するため、その精神の根本となる生命倫理教育を肝要とし、臨床的思考や国際的視野を育む内容を具備したカリキュラム。

医科学専攻 修士（医科学）

医科学専攻では、高度化する医療技術の進歩に対応できる専門的人材を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 原則として医科学教育部博士課程に進学するものと想定し、修士2年・博士4年の一貫した教育構想を基本としたカリキュラム。
2. 医学科以外の出身者を入学対象者としていることから、多様な専門的背景を持つ学生の個性に配慮したカリキュラム。
3. 基礎医学から先端医学研究分野へ至るまで、知識・技能を体系的、総合的に理解、修得できるカリキュラム。
4. 医学に関わる高度専門職業人及び研究者を育成するため、その精神の根本となる生命倫理教育を肝要とし、臨床的思考や国際的視野を育む内容を具備したカリキュラム。

博士課程

医科学教育部博士課程では、医学分野において高度な研究能力と豊かな学識を備え、高度先進医療を充実・発展させることができる人材を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 集学的、学際的な学術研究環境を構築するため、特定分野に偏らない共通科目を多く設定するとともに、複数の分野の教員による指導体制を設け、基礎・臨床医学を融合させたカリキュラム。
2. 医学科以外を卒業した学生の受け入れに配慮したカリキュラム。

3. 研究に必要とされる知識と方法を基本から専門性の高い領域へと段階的に習得できるように、一貫性、系統性を確保したカリキュラム。
4. 医学領域に関わる先端的研究者及び高度専門医に必要不可欠である生命倫理教育を必須とし、研究に対する精神性・社会性の内容を重視した内容を具備したカリキュラム。

医学専攻 博士（医学）

医学専攻では、医学分野において高度な研究能力と豊かな学識を備え、高度先進医療を充実・発展させることができる人材を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 集学的、学際的な学術研究環境を構築するため、特定分野に偏らない共通科目を多く設定するとともに、複数の分野の教員による指導体制を設け、基礎・臨床医学を融合させたカリキュラム。
2. 医学科以外を卒業した学生の受け入れに配慮したカリキュラム。
3. 研究に必要とされる知識と方法を基本から専門性の高い領域へと段階的に習得できるように、一貫性、系統性を確保したカリキュラム。
4. 医学領域に関わる先端的研究者及び高度専門医に必要不可欠である生命倫理教育を必須とし、研究に対する精神性・社会性の内容を重視した内容を具備したカリキュラム。

口腔科学教育部

博士前期課程

口腔科学教育部では、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 教育課程の編成

専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させる授業科目及び当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養することができる授業科目を開設するとともに、修士論文作成又は特定の課題についての研究に係る研究指導體制を整備した体系的な教育課程を編成する。

2. 教育方法

体系的な教育課程及び研究指導を通じて、高い研究遂行能力と研究遂行に求められる高い倫理観を育む機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験を適切に行う。

口腔保健学専攻 修士（口腔保健学）

口腔保健学専攻（博士前期課程）では、健康増進及び疾病管理の視点に立って自らの専門領域を捉えうる歯科衛生士教育の担い手や高度専門職業人を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 履修科目は口腔保健学の基礎や基盤を形成する基礎・専門科目、応用力を養う専門科目及び実践教育を行う専門科目の3段階を基本として、各レベルに必修科目を設け、学期進行とともに履修可能科目レベルも上がる段階的教科編成とする。

2. 基礎科目として、医療系教育部（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目を受講させ、学際的な基礎的・臨床的知識を修得させる。

3. 専門科目に次世代の歯科衛生士教育の担い手及び研究者を養成する「教育・研究系コース」と社会が求める高度専門職業人を育成する「臨床系コース」の2コースを設け、各専門分野の担い手として卓越した能力が培えるカリキュラム構成とする。

4. 先進的な口腔保健・歯科医療・社会福祉技術とリサーチマインドを備えた教育・研究者や高度専門職業人養成のため、必要科目を確実に履修させる体制を整え、最新の研究成果を学びながら自ら研究を遂行し、口腔保健学の進歩に貢献できるよう研究指導を実施する。

博士後期課程及び博士課程

口腔科学教育部では、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成することをめざし、以下の教育課程を編成・実施します。

1. 教育課程の編成

専攻分野に関する卓越した専門的知識及び能力を修得させる授業科目を開設するとともに、博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成する。

2. 教育方法

体系的な教育課程と研究指導を通じて、自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。学位研究の中間段階から、複数教員による指導体制の場を提供する。優秀な研究活動に対する表彰制度を実施する。

3. 学修成果の評価

客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して形成的評価として、成績評価基準を各学年毎のアカデミックレコードの評価項目として明示し、評価を行い、最終評価は、博士論文の審査及び最終試験を厳格に行う。

口腔保健学専攻 博士（口腔保健学）

口腔保健学専攻（博士後期課程）では、長寿福祉口腔保健学の学際領域の教育・研究を自ら構築し展開できる人材を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 履修科目は長寿福祉口腔保健学の基盤を形成する基礎科目と3つの専門科目（専門基礎科目，専門展開科目，課題研究科目）から構成され、学年進行に併せた段階的な教育課程の編成としている。
2. 基礎科目として、医療系教育部（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目を受講し、多様な学生が学生間で切磋琢磨しながら、学際的な基礎的・臨床的知識を修得する。
3. 専門展開科目では特色を有する6領域を設定しており、このうちの2領域の専門展開科目を修得することにより、養成の目的に応じたカリキュラム体制が構築できる。
4. グローバル化を見据えて大学院授業科目の受講や研究発表に英語を組み入れ、国際社会で通用するコミュニケーション能力を獲得させる。
5. 博士論文の作成と研究成果の発表を通じて、超高齢社会における諸問題の理解・解決能力ならびに新分野を開拓する能力を身につけ、長寿福祉口腔保健学の進歩に貢献できるよう研究指導を実施する。

口腔保健学専攻 博士（学術）

口腔保健学専攻（博士後期課程）では、長寿福祉口腔保健学の学際領域の教育・研究を自ら構築し展開できる人材を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 履修科目は長寿福祉口腔保健学の基盤を形成する基礎科目と3つの専門科目（専門基礎科目，専門展開科目，課題研究科目）から構成され、学年進行に併せた段階的な教育課程の編成としている。
2. 基礎科目として、医療系教育部（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目を受講し、多様な学生が学生間で切磋琢磨しながら、学際的な基礎的・臨床的知識を修得する。
3. 専門展開科目では特色を有する6領域を設定しており、このうちの2領域の専門展開科目を修得す

ることにより、養成の目的に応じたカリキュラム体制が構築できる。

口腔科学専攻 博士（歯学）

口腔科学専攻（博士課程）では、国際的に通用する研究者及びリサーチマインドを備えた専門的医療人を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 医療系教育部（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目の学習を通じて、広い視野から基礎的・臨床的知識を習得させ、医学系研究者としての倫理観を育成する。（基盤的な知識と倫理観）
2. 口腔科学に関する各専門分野の講義、演習、実験実習を展開させ、歯科医療の進歩に寄与できる口腔科学研究のエキスパートとしての能力を獲得させる。（専門的知識）
3. 口腔科学における課題を見出し、研究活動を通して問題解決能力を育成する。（課題解決能力）
4. 英語による大学院授業科目の受講や研究発表を通して、国際社会で通用するコミュニケーション能力を獲得させる。（国際性）
5. 歯学・学術コースでは、先端医学を学びながら口腔科学の進歩に貢献できる基盤的研究を展開し、国際的に活躍できる研究者を育成できるカリキュラム構成とする。
6. 臨床歯学コースでは、先進的な歯科医療技術とリサーチマインドを備えた専門的医療人養成のため、種々の臨床技術（診断、検査、治療など）を習得させ、ヒトを対象とした臨床研究を行いながら、高度な歯科専門教育の指導者を養成できるカリキュラム構成とする。

口腔科学専攻 博士（学術）

口腔科学専攻（博士課程）では、国際的に通用する研究者及びリサーチマインドを備えた専門的医療人を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 医療系教育部（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目の学習を通じて、広い視野から基礎的・臨床的知識を習得させ、医学系研究者としての倫理観を育成する。（基盤的な知識と倫理観）
2. 口腔科学に関する各専門分野の講義、演習、実験実習を展開させ、歯科医療の進歩に寄与できる口腔科学研究のエキスパートとしての能力を獲得させる。（専門的知識）
3. 口腔科学における課題を見出し、研究活動を通して問題解決能力を育成する。（課題解決能力）
4. 英語による大学院授業科目の受講や研究発表を通して、国際社会で通用するコミュニケーション能力を獲得させる。（国際性）
5. 歯学・学術コースでは、先端医学を学びながら口腔科学の進歩に貢献できる基盤的研究を展開し、国際的に活躍できる研究者を育成できるカリキュラム構成とする。
6. 臨床歯学コースでは、先進的な歯科医療技術とリサーチマインドを備えた専門的医療人養成のため、種々の臨床技術（診断、検査、治療など）を習得させ、ヒトを対象とした臨床研究を行いながら、高

度な歯科専門教育の指導者を養成できるカリキュラム構成とする。

薬科学教育部

博士前期課程

薬科学教育部では、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の教育方針で教育課程を編成・実施します。

1. 教育課程の編成

創薬科学分野の知識を体系的に修得し、関連分野の研究展開能力を高めるため、複数教員による分野横断的創薬関連8特論を提供するとともに、国際コミュニケーション力を醸成するため、英語論文作成科目を設置する。さらに、医療倫理観醸成に関する講義を配し、人権、生命倫理、個人情報保護、実験動物愛護に関する基本的知識を修得させる。

2. 教育方法

体系的な教育課程と指導教員制度による教育指導を通じて骨太かつきめ細やかな指導体制を実現する。

3. 学修成果の評価

客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、修士論文の審査及び最終試験を適切に行う。

創薬科学専攻 修士（薬科学）

創薬科学専攻では、創薬科学の専門知識を体系的に学習し、深い探究心や豊かな創造力及び国際的に通用する力量を身につけ、高い応用力、洞察力、国際コミュニケーション力、医療倫理観を併せ持つ創薬・製薬研究者を養成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 教育課程の編成

創薬科学分野の知識を体系的に修得し、関連分野の研究展開能力を高めるため、複数教員による分野横断的創薬関連8特論を提供するとともに、国際コミュニケーション力を醸成するため、英語論文作成科目を設置する。さらに、医療倫理観醸成に関する講義を配し、人権、生命倫理、個人情報保護、実験動物愛護に関する基本的知識を修得させる。

2. 教育方法

体系的な教育課程と指導教員制度による教育指導を通じて骨太かつきめ細やかな指導体制を実現する。

3. 学修成果の評価

客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、修士論文の審査及び最終試験を適切に行う。

博士後期課程及び博士課程

薬科学教育部では、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の教育方針で教育課程を編成・実施します。

1. 教育課程の編成

広範な教養と客観的な判断力を養うための分野横断的な演習科目及び特論を開設するとともに、博士論文研究では、広い視点からの研究指導を目的とした主指導教員と2名の副指導教員による複数指導体制を実現する。博士後期課程では国際的視野で活躍できる人材の養成を目指し、国際学会発表、国際誌への論文投稿、英語論文の査読を体系的に学ぶ特論を設置する。博士課程では国際コミュニケーション醸成のため英語論文作成科目、がん専門薬剤師養成を目的としたアドバンス科目群を設置する。

2. 教育方法

博士後期課程ではプレゼンテーション力や質疑応答能力の涵養を行う演習科目、及び分野横断的な演習科目の導入と複数指導体制を通じて、未知の課題に対して自ら研究計画を立案でき、問題解決能力・学際的な研究推進能力を備えた国際的に通用する力量を持った先導的創薬・基礎薬学研究者及び薬学教育者となれる機会を提供する。

博士課程では大学病院と連携した実践演習と複数指導体制を通じて、臨床への橋渡し研究を遂行できる能力と国際的に通用する力量を持ち、臨床に根ざした先端的研究能力を有した臨床薬剤師、高度な職能を持つ専門薬剤師、レギュラトリーサイエンスに精通した医療薬学研究者及びこれらの人材を育成できる医療系薬学教育者になれる機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。

創薬科学専攻 博士（薬科学）

創薬科学専攻では、薬学の専門性を確保した上で広範な教養を持ち、未知の課題に対し自ら研究計画を立案でき、問題解決能力・学際的な研究推進能力を備えた国際的に通用する力量を持った先導的創薬・基礎薬学研究者及び薬学教育者を養成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 教育課程の編成

広範な教養と客観的な判断力を養うための分野横断的な演習科目を設置するとともに、国際的視野で活躍できる人材の養成をめざし、国際学会発表、国際誌への論文投稿、英語論文の査読を体系的に学ぶ特論を設置する。さらに、博士論文研究では、広い視点からの研究指導を目的とした主指導教員と2名の副指導教員による複数指導態勢を実現する。

2. 教育方法

プレゼンテーション力や質疑応答能力の涵養を行う演習科目、及び分野横断的な演習科目の導入と主指導教員と2名の副指導教員による複数指導態勢を通じて、未知の課題に対して自ら研究計画を立案でき、問題解決能力・学際的な研究推進能力を備えた国際的に通用する力量を持った先導的創薬・基礎薬学研究者及び薬学教育者となれる機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。

薬学専攻 博士（薬学）

薬学専攻では、臨床への橋渡し研究を遂行できる能力と国際的に通用する力量を持ち、臨床に根ざした先端的研究能力を有した臨床薬剤師、高度な職能を持つ専門薬剤師、レギュラトリーサイエンスに精

通した医療薬学研究者及びこれらの人材を育成できる医療系薬学教育者を養成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 教育課程の編成

広範な教養と客観的な判断力を養うための分野横断的な演習科目及び特論を設置するとともに、国際コミュニケーション力醸成のため英語論文作成科目、がん専門薬剤師養成を目的としたアドバンスド科目群を設置する。さらに、博士論文研究では、広い視点からの研究指導を目的とした主指導教員と2名の副指導教員による複数指導体制を実現する。

2. 教育方法

大学病院と連携した実践演習と指導教員と2名の副指導教員による複数指導体制を通じて、臨床への橋渡し研究を遂行できる能力と国際的に通用する力量を持ち、臨床に根ざした先端的研究能力を有した臨床薬剤師、高度な職能を持つ専門薬剤師、レギュラトリーサイエンスに精通した医療薬学研究者及びこれらの人材を育成できる医療系薬学教育者になれる機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。

栄養生命科学教育部

博士前期課程

栄養生命科学教育部博士前期課程では、栄養学を基盤として医療、行政、企業の活動をリードできる高度専門職業人を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 必修科目として「人間栄養学特論」，「健康科学特論」，「臨床栄養学特論」を受講させ、栄養学の高度で幅広い知識を修得させる。
2. 基礎科目として、医療系教育部（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目を受講させ、学際的な基礎的・臨床的知識を修得させる。
3. 専門科目として演習および実習を中心としたカリキュラムを構成し、高度専門職業人として必要な問題を解決する能力を修得させる。
4. 生命栄養科学の基本的研究手技、臨床栄養管理の基本的技能を英語で修得するカリキュラムを受講させ、社会のオピニオンリーダーとして活動する能力を修得させる。

人間栄養科学専攻 修士（栄養学）

人間栄養科学専攻では、栄養学を基盤として医療、行政、企業の活動をリードできる高度専門職業人を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 必修科目として「人間栄養学特論」，「健康科学特論」，「臨床栄養学特論」を受講させ、栄養学の高度で幅広い知識を修得させる。
2. 基礎科目として、医療系教育部（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目を受講させ、学際的な基礎的・臨床的知識を修得させる。
3. 専門科目として演習および実習を中心としたカリキュラムを構成し、高度専門職業人として必要な問題を解決する能力を修得させる。
4. 生命栄養科学の基本的研究手技、臨床栄養管理の基本的技能を英語で修得するカリキュラムを受講させ、社会のオピニオンリーダーとして活動する能力を修得させる。

博士後期課程

栄養生命科学教育部博士後期課程では、人間栄養科学専攻では、栄養学を基盤として大学、研究所、医療、行政、企業に加えて、国際的活動をリードできる人材を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 医療系教育部（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目の学習を通じて、広い視野から基礎的・臨床的知識を習得させ、栄養学の教育研究者としての倫理観を獲得させる。

2. 必須科目「先端健康科学特論」はじめ国内外最先端栄養学を学習する指定科目を受講させ、最新情報の取得、理解および解説できる能力を獲得させる。
3. 栄養生命科学における課題を見出し、研究活動を通して問題解決能力を獲得させる。
4. 英語による大学院授業科目の受講や研究発表を通して、国際社会で活躍できる情報発信方法やコミュニケーション能力を獲得させる。

人間栄養科学専攻 博士（栄養学）

人間栄養科学専攻では、栄養学を基盤として大学、研究所、医療、行政、企業に加えて、国際的活動をリードできる人材を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 医療系教育部（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目の学習を通じて、広い視野から基礎的・臨床的知識を習得させ、栄養学の教育研究者としての倫理観を獲得させる。
2. 必須科目「先端健康科学特論」はじめ国内外最先端栄養学を学習する指定科目を受講させ、最新情報の取得、理解および解説できる能力を獲得させる。
3. 栄養生命科学における課題を見出し、研究活動を通して問題解決能力を獲得させる。
4. 英語による大学院授業科目の受講や研究発表を通して、国際社会で活躍できる情報発信方法やコミュニケーション能力を獲得させる。

保健科学教育部

博士前期課程

保健科学教育部では、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 幅広い学問領域の知識を修得させるため、医療系教育部を横断する共通カリキュラム科目を編成する。
2. 高度な専門基礎知識の修得及び異なる医療専門職との協働力を育むための専門科目を編成する。
3. 最先端の専門的知識と技能を修得させるため、特論科目を編成する。
4. 国際的に活躍し得る人材を育成するため、優れた語学力と情報化社会への対応力を修得させる科目を教育課程に設ける。
5. 生命尊厳を基盤とした高い倫理観を形成させ、保健科学分野のリーダーを育成する科目を編成する。
6. より良い医療・保健推進のために解決すべき新しい研究テーマを自ら選択することができ、研究成果をとりまとめ、研究発表及び論文作成ができる能力を修得させるため、複数教員の研究指導体制による特別研究を設定する。
7. 高度専門職業人養成のための科目を編成する。

保健学専攻 修士（保健学）

保健学専攻では、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 幅広い学問領域の知識を修得させるため、医療系教育部を横断する共通カリキュラム科目を編成する。
2. 高度な専門基礎知識の修得及び異なる医療専門職との協働力を育むための専門科目を編成する。
3. 最先端の専門的知識と技能を修得させるため、特論科目を編成する。
4. 国際的に活躍し得る人材を育成するため、優れた語学力と情報化社会への対応力を修得させる科目を教育課程に設ける。
5. 生命尊厳を基盤とした高い倫理観を形成させ、保健科学分野のリーダーを育成する科目を編成する。
6. より良い医療・保健推進のために解決すべき新しい研究テーマを自ら選択することができ、研究成果をとりまとめ、研究発表及び論文作成ができる能力を修得させるため、複数教員の研究指導体制による特別研究を設定する。
7. 高度専門職業人養成のための科目を編成する。

保健学専攻 修士（看護学）

保健学専攻では、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 幅広い学問領域の知識を修得させるため、医療系教育部を横断する共通カリキュラム科目を編成する。
2. 高度な専門基礎知識の修得及び異なる医療専門職との協働力を育むための専門科目を編成する。
3. 最先端の専門的知識と技能を修得させるため、特論科目を編成する。
4. 国際的に活躍し得る人材を育成するため、優れた語学力と情報化社会への対応力を修得させる科目を教育課程に設ける。
5. 生命尊厳を基盤とした高い倫理観を形成させ、保健科学分野のリーダーを育成する科目を編成する。
6. より良い医療・保健推進のために解決すべき新しい研究テーマを自ら選択することができ、研究成果をとりまとめ、研究発表及び論文作成ができる能力を修得させるため、複数教員の研究指導体制による特別研究を設定する。
7. 高度専門職業人養成のための科目を編成する。

博士後期課程

保健科学教育部では、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 複合的な視点で保健科学を評価・分析・理解させるため、医療系教育部を横断する共通カリキュラム科目を編成する。
2. 他領域の研究者と協力し、新たな分野を切り拓く能力を育むための専門科目を編成する。
3. 最先端の専門的知識と研究技能を修得させるため、特講科目を編成する。
4. 海外教育研究機関の研究者との交流や共同研究を実施でき、研究成果を国際学会や国際雑誌に発表できる能力を修得させるため、特講演習を編成する。
5. 生命尊厳の倫理観に立脚した保健科学の新しい研究領域を切り拓く俯瞰力と独創力を涵養する科目を編成する。
6. より良い医療・保健推進のために解決すべき独創的な研究テーマを領域横断的視点から自ら設定し、研究成果をとりまとめ、研究発表及び論文作成、さらには、研究のマネジメントができ、研究者として自立した研究活動を行うに必要な高度な研究能力を修得させるため、複数教員の研究指導体制による特別研究を設定する。

保健学専攻 博士（保健学）

保健学専攻では、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 複合的な視点で保健科学を評価・分析・理解させるため、医療系教育部を横断する共通カリキュラム科目を編成する。
2. 他領域の研究者と協力し、新たな分野を切り拓く能力を育むための専門科目を編成する。
3. 最先端の専門的知識と研究技能を修得させるため、特講科目を編成する。
4. 海外教育研究機関の研究者との交流や共同研究を実施でき、研究成果を国際学会や国際雑誌に発表できる能力を修得させるため、特講演習を編成する。
5. 生命尊厳の倫理観に立脚した保健科学の新しい研究領域を切り拓く俯瞰力と独創力を涵養する科目を編成する。
6. より良い医療・保健推進のために解決すべき独創的な研究テーマを領域横断的視点から自ら設定し、研究成果をとりまとめ、研究発表及び論文作成、さらには、研究のマネジメントができ、研究者として自立した研究活動を行うに必要な高度な研究能力を修得させるため、複数教員の研究指導体制による特別研究を設定する。

先端技術科学教育部

博士前期課程

先端技術科学教育部では、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 教育課程の編成

豊かな人格と教養並びに自発的意欲を育て、工学分野の広角的な基礎知識を基とした分析力や課題探求・解決能力を涵養することができる授業科目を開設するとともに、修士論文作成に係る研究指導体制を整備した教育課程を編成する。

2. 教育方法

国際レベルの先進的研究並びに地域企業との共同研究による技術開発を推進し、体系的な教育と研究指導を行うとともに、国際交流を活性化し、社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を育む機会を提供する。

3. 学修成果の評価

客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、修士論文に係る研究成果の審査及び最終試験を適切に行う。

知的力学システム工学専攻 修士（工学） 建設創造システム工学コース

建設創造システム工学コースでは、社会基盤を担う建造物の建設技術と自然環境の保全技術に関する高度な知識を有し、問題探求・解決能力、計画・企画力及び実行力を身につけるとともに、豊かな人格と教養及び自発的意欲を持ち、建設創造システム工学の創造的展開に貢献できる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している

1. 多様な分野の科目を履修させることで、正しい倫理感を持たせ、総合的判断力・応用力・課題探求力を身につけさせる。さらに地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。
2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。
3. 各専攻における共通的な科目群を設定し、専門性と幅広い分野にかかわる問題点の存在を認識できる能力を身につけさせる。専門性との関係を意識しながら、専攻を横断する広い視野を養わせる。特に組織的・系統的なハードウェアとソフトウェア系を対象としたシステム工学に関わる能力を身につけさせる。
4. 社会基盤を構築する各種施設・建造物の設計や施工、保全・補修に関する力学的理論と環境エネルギー工学の基礎を身につけさせるとともに、工学技術が環境に及ぼす影響を理解し、かつ、最新の情報システムと環境システムを融合した高度な知的力学システムを独創的に創造できる能力を涵養させる。
5. 社会基盤を構築する各種施設・建造物の設計・施工・維持や、人間社会が環境に及ぼす影響の評価

とその緩和に関する基礎的及び実践的なテーマ設定のもとに、課題演習・調査・実験を遂行し、対象とする現象への理解を深めるとともに、問題抽出・解決能力並びに創造性を高めさせる。さらに、修士論文の作成と公聴会を通じて、論理的表現能力と情報発信能力を高めさせる。

知的力学システム工学専攻 修士（工学） 機械創造システム工学コース

機械創造システム工学コースでは、基礎的知識である力学的理論を学習した上で、豊かな人格と教養及び自発的意欲を持ち、機械創造システム工学を独創的に創造できる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 多様な分野の科目を履修させることで、正しい倫理感を持たせ、総合的判断力・応用力・課題探求力を身につけさせる。さらに地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。
2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。
3. 各専攻における共通的な科目群を設定し、専門性と幅広い分野にかかわる問題点の存在を認識できる能力を身につけさせる。専門性との関係を意識しながら、専攻を横断する広い視野を養わせる。特に組織的・系統的なハードウェアとソフトウェア系を対象としたシステム工学に関わる能力を身につけさせる。
4. 機械工学科に関する学部教育で培われた専門基礎能力を基に、専門性を一層向上させると同時に、職業倫理など人間性の涵養に努めるカリキュラムを編成する。また、機械工学とは異なる専門分野の学士課程を修めた大学院生に対して、必要な科目の学修を可能とするカリキュラムを編成する。
5. 機械創造システム特別演習を通して、機械工学に関する特定分野に関する理解を深めさせ、それに基づき機械創造システム特別研究を行うことにより、創造的思考力をもって課題を深く探求する能力を養成する。

物質生命システム工学専攻 修士（工学） 化学機能創生コース

化学機能創生コースでは、化学及び化学技術に関する幾つかのことを深く探求し、その成果を社会に還元させることにより産業界の要請に応えることのできる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 問題分析過程において、問題点を明確に表現し伝えるコミュニケーション能力、地域社会を含む産業界の活性化に貢献する能力及び豊かで健全な国際社会を構築するための国際交流に積極的に寄与できる能力を養成する（学習・教育目標のD及びEに対応する総合科目及び企業関連の総合科目の履修により実施）。
2. 環境に与える化学及び化学技術の影響を具体的に把握する能力を養成する（化学環境工学特論、生物環境工学特論、環境システム工学特論の履修により実施）。さらに、環境工学履修モデルの学生には、その課程を修了させることで、高度環境工学技術者としての能力を養成する（他コースの環境関連科目の履修により実施）。

3. 物質創生の基礎としての化学分野を、幅広くその周辺領域—物理学や生命科学等—も含め、深く理解し応用させることのできる能力を養成する（学習・教育目標のAに対応する総合科目・専門科目の履修により実施）。
4. 化学物質の創製を、人間や自然環境への影響とそれを評価するシステムを考慮しながら進展させることのできる能力及び現代社会が直面する種々の問題を主として化学的な視点から分析し、解決する能力を養成する（学習・教育目標のB及びCに対応する専門科目からの選択履修により実施）。
5. 化学及び化学技術に関する特定分野とそれに関連する分野を統合的に理解し、その分野に応じた研究手法を用いて、創造的思考力をもって深く探求することができる能力を養成する（化学機能創生輪講及び演習、化学機能創生特別実験1、化学機能創生特別実験2の履修により実施）。

物質生命システム工学専攻 修士（工学） 生命テクノサイエンスコース

生命テクノサイエンスコースでは、国際的視野と生命倫理の観点から先端的生物工学の知識を技術、製品開発に活かし、国内外で活躍できる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 多様な分野の科目を履修させることで、正しい倫理感を持たせ、総合的判断力・応用力・課題探求力を身につけさせる。さらに地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。
2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。
3. 各専攻における共通的な科目群を設定し、専門性と幅広い分野にかかわる問題点の存在を認識できる能力を身につけさせる。専門性との関係を意識しながら、専攻を横断する広い視野を養わせる。特に物質循環、化学物質、そして生物多様性の保全や環境問題点の存在を認識できる能力を身につけさせる。
4. 生命の優れた機能と構造を科学的に解明し、産業に応用するための生物工学分野を周辺領域も含めて深く理解し、応用させる能力を「微生物工学特論」、「酵素学特論」、「分子生物学」、「生化学特論」等により修得させる。
5. 生命科学の最新の専門的研究手法を用いて社会的ニーズの解決を図るとともに、その過程で開発した技術等をさらに高度に応用・発展させ、またそれを社会に発信する能力を「生物テクノサイエンス特別実験」等で培い、「修士論文」において研究成果として結実させる。

システム創生工学専攻 修士（工学） 電気電子創生工学コース

電気電子創生工学コースでは、電気電子工学に関する課題を、幅広い視野と論理的な思考で解決し、地域社会、国際社会に貢献できる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 多様な分野の科目を履修させることで、正しい倫理感を持たせ、総合的判断力・応用力・課題探求力を身につけさせる。さらに地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な

英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。

2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。
3. 各専攻における共通的な科目群を設定し、専門性と幅広い分野にかかわる問題点の存在を認識できる能力を身につけさせる。専門性との関係を意識しながら、専攻を横断する広い視野を養わせる。特に組織的・系統的なハードウェアとソフトウェア系を対象としたシステム工学に関わる能力を身につけさせる。
4. 電気電子工学に関する深い専門知識と先端技術に関する科目を設置し、専門分野の深い理解力を持つと同時に幅広い分野にわたる学識を有する高度技術者を養成する。
5. 修士論文に関連した実験研究を学生による主体的学修と個別指導による研修方式で、『電気電子創生工学特別実験1・2』とし、課題設定能力や問題解決能力に関する高い能力を養成する。

システム創生工学専攻 修士（工学）

知能情報システム工学コース

知的情報システム工学コースでは、知能情報工学の技術者としての標準的水準の能力を持ち、広い視野と自律的に行動できる能力を持つ国内外の社会に貢献できる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 多様な分野の科目を履修させることで、正しい倫理感を持たせ、総合的判断力・応用力・課題探求力を身につけさせる。さらに地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。
2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。
3. 各専攻における共通的な科目群を設定し、専門性と幅広い分野にかかわる問題点の存在を認識できる能力を身につけさせる。専門性との関係を意識しながら、専攻を横断する広い視野を養わせる。特に組織的・系統的なハードウェアとソフトウェア系を対象としたシステム工学に関わる能力を身につけさせる。
4. 学部教育で培われた専門基礎能力を応用し、専門性を一層向上させることができる専門応用能力を身につけさせる。また、創造性の育成を目指したチームによるプロジェクト達成型の創成科目「知能情報システム工学輪講及び演習」により、単に創造性のみならず、チームによるプロジェクト達成にとって不可欠となるコミュニケーション並びに自己学習などの能力を身につけさせる。
5. 1年次の後半に実施している学内ポスター発表会における研究内容を発表させる。また、在学中に少なくとも一回、国内外の学会にて研究発表をさせる。修士研究においては、与えられた研究テーマについて2年間を通して研究を行い、口頭発表を最終試験として実施することで、これまで学んだ最先端の専門的知識・技術を活用し、専門性と創造性の視点を生かしながら課題解決力や研究開発力を身につけさせる。

システム創生工学専攻 修士（工学） 光システム工学コース

光システム工学コースでは、光技術の専門家として国際的に通用する活力のある自立的な人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 多様な分野の科目を履修させることで、正しい倫理感を持たせ、総合的判断力・応用力・課題探求力を身につけさせる。さらに地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。
2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。
3. 各専攻における共通的な科目群を設定し、専門性と幅広い分野にかかわる問題点の存在を認識できる能力を身につけさせる。専門性との関係を意識しながら、専攻を横断する広い視野を養わせる。特に組織的・系統的なハードウェアとソフトウェア系を対象としたシステム工学に関わる能力を身につけさせる。
4. 光応用工学分野の基礎知識を活用しつつ、幅広く環境問題を工学的・技術的に解決できる高度サステナブル社会の構築に資する能力を身につけさせる。
5. これまでに学んだ専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし、質の高い研究論文を作成させる。

博士後期課程

先端技術科学教育部では、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 教育課程の編成
豊かな人格と教養並びに自発的意欲を育て、工学分野の卓越した専門的知識及び能力を修得させる授業科目を開設するとともに、博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成する。
2. 教育方法
国際レベルの先進的研究並びに地域企業との共同研究による技術開発を推進し、体系的な教育と研究指導を行うとともに、国際交流を活性化し、自立して独創的な研究を遂行できる能力と高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。
3. 学修成果の評価
客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し、当該基準に基づき厳格な評価を行い、博士論文の審査及び最終試験を適切に行う。

知的力学システム工学専攻 博士（工学） 建設創造システム工学コース

建設創造システム工学コースでは、社会基盤を担う建造物の建設技術と自然環境の保全技術に関する高度かつ広範な知識を有し、指導的な立場から問題を解決するのみならず自ら問題を探求・設定する能力を身につけるとともに、豊かな人格と教養及び自発的意欲を模範的に示し、建設創造システム工学を

独創的に創造できる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 多様な分野の科目を履修させることで、学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。
2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。
3. 自身の専門領域以外に関する演習を行うことで、他の領域からの視点や方法論などを学ばせ、幅広い知識を身につけさせる。
4. 博士論文に関連の深い分野の演習を行うことで、専門性を深めさせる。
5. 社会基盤を構築する各種施設・構造物の設計や施工、保全・補修に関する高度な力学的理論と専門的な研究手法と、環境エネルギー工学の基礎知識に基づき工学技術が環境に及ぼす影響を考慮しながら建設工学に関わる先駆的な学術研究を推進・展開する能力を身につけさせるとともに、最新の情報システムと環境システムを融合した高度な知的力学システムの創造を指導的な立場から推進できる能力を涵養させる。
6. これまでに学んだ2つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし、国内外で認められる質の高い研究論文を作成させる。

知的力学システム工学専攻 博士（工学） 機械創造システム工学コース

機械創造システム工学コースでは、機械工学に関する高度の専門知識と研究能力を有する創造的な技術者・研究者を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 多様な分野の科目を履修させることで、学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。
2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。
3. 自身の専門領域以外に関する演習を行なうことで、他の領域からの視点や方法論などを学ばせ、幅広い知識を身につけさせる。
4. 博士論文に関連の深い分野の演習を行なうことで、専門性を深めさせる。
5. 機械工学に関する専門性を更に深化・発展させるとともに、周辺分野との学際的な専門知識を有する創造的技術者・研究者を養成する。また、プロジェクトリーダーとして研究開発を主導できるコミュニケーション能力やリーダーシップを有し、創造的に問題解決を成し遂げることで豊かで健全な社会の構築に貢献するとともに、高い倫理感を涵養する。
6. これまでに学んだ2つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし、国内外で認められる質の高い研究論文を作成させる。

物質生命システム工学専攻 博士（工学） 化学機能創生コース

化学機能創生コースでは、化学及び化学技術に関する新しい原理、方法、現象等の探求を通じてその成果を更に高度に発展させることに興味を持ち、将来、国際的、学際的な研究プロジェクトの中核となる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 問題分析過程において、指導的立場で、問題点を明確に表現し伝えるコミュニケーション能力、地域社会を含む産業界の活性化に指導的立場で貢献する能力及び豊かで健全な国際社会を構築するための国際交流に指導的な立場で寄与できる能力を養成する（学習・教育目標のD及びEに対応する総合科目及び企業関連の総合科目の履修により実施）。
2. 環境に与える化学及び化学技術の影響を指導的立場で具体的に把握する能力を養成する（資源エネルギー変換特論の履修により実施）。
3. 物質創生の基礎としての化学分野を、幅広くその周辺領域—物理学や生命科学等—も含め、深く理解し応用させるだけでなく、新たな分野を構築することのできる能力を養成する（学習・教育目標のAに対応する総合科目・専門科目の履修により実施）。
4. 化学物質の創製を、人間や自然環境への影響とそれを評価するシステムを考慮しながら指導的立場で進展させることができる能力及び現代社会が直面する種々の問題を主として化学的な視点から指導的立場で分析し、解決する能力を養成する（学習・教育目標のB及びCに対応する専門科目からの履修により実施）。
5. 化学及び化学技術に関する高度に専門的な研究手法を用いて、新しい原理、方法、現象等の探求を行い、さらに高度に発展させる能力を養成する（化学機能創生特別演習、化学機能創生特別研究の履修により実施）。

物質生命システム工学専攻 博士（工学） 生命テクノサイエンスコース

生命テクノサイエンスコースでは、世界をリードする生物工学、生命科学の研究、技術開発を行い、環境、医薬、化学エネルギー、食糧生産の分野での諸問題を生物工学により解決し、国際的に活躍できる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 多様な分野の科目を履修させることで、学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。
2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。
3. 自身の専門領域以外に関する演習を行うことで、他の領域からの視点や方法論などを学ばせ、幅広い知識を身につけさせる。
4. 博士論文に関連の深い分野の演習を行うことで、専門性を深めさせる。

5. 生物工学領域の高度な専門的知識を理解し、それを最先端技術開発や社会・環境の保全・創造に活用する能力を養わせるとともに、学会発表・原著論文作成・特許申請等を通じて研究成果を広く世界に発信し、国際的かつ学術的な研究プロジェクトを推進できる能力を「微生物分子論」、「酵素機能工学」、「生体機能工学」、「分子病原微生物論」等により修得させる。
6. これまでに学んだ2つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし、国内外で認められる質の高い研究論文を作成させる。

システム創生工学専攻 博士（工学） 電気電子創生工学コース

電気電子創生工学コースでは、デバイス、エネルギー、電子回路、システム等の技術を統合した電気電子システムを創生することのできる総合的な人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 多様な分野の科目を履修させることで、学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。
2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。
3. 自身の専門領域以外に関する演習を行うことで、他の領域からの視点や方法論などを学ばせ、幅広い知識を身につけさせる。
4. 博士論文に関連の深い分野の演習を行うことで、専門性を深めさせる。
5. 電気電子工学に関する高度な専門知識を教授する専門科目を設置し、専攻分野において国際水準の研究を実施できる技術者を養成する。
6. これまでに学んだ2つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし、国内外で認められる質の高い研究論文を作成させる。

システム創生工学専攻 博士（工学） 知能情報システム工学コース

知能情報システム工学コースでは、デバイス、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク等の技術を統合した知能情報システムを創生することのできる総合的な人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 多様な分野の科目を履修させることで、学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。
2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。
3. 自身の専門領域以外に関する演習を行うことで、他の領域からの視点や方法論などを学ばせ、幅広

い知識を身につけさせる。

4. 博士論文に関連の深い分野の演習を行うことで、専門性を深める。
5. 専攻分野において国際水準の研究を実施できるように、社会での実応用を意識した実践的な専門応用技術を身につけさせる。
6. これまでに学んだ2つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし、国内外で認められる質の高い研究論文を作成させる。

システム創生工学専攻 博士（工学） 光システム工学コース

光システム工学コースでは、デバイス、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク等の技術を統合した光応用システムを創生することのできる総合的な人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 多様な分野の科目を履修させることで、学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。
2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。
3. 自身の専門領域以外に関する演習を行うことで、他の領域からの視点や方法論などを学ばせ、幅広い知識を身につけさせる。
4. 博士論文に関連の深い分野の演習を行うことで、専門性を深めさせる。
5. 光応用工学分野の基礎知識を活用しつつ、幅広く環境問題を工学的・技術的に解決できる高度サステナブル社会の構築に資する能力を身につけさせる。
6. これまでに学んだ2つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし、国内外で認められる質の高い研究論文を作成させる。